



森のなかま

2011年 7月号
NO. 39 (継続184)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

「全国植樹祭の森へ行こう！」を開催

(財) かながわトラストみどり財団
みどり森林課 課長 内海 規

第61回全国植樹祭の神奈川県での開催を記念して、
毎年5月の第4週の日曜日を「かながわの森へ行こう！」の日として全県的に広報するとともにシンボルイベントを開催し、日頃から森に行く機会の少ない人にも森へ行くことを勧める目的で、神奈川県と(財)かながわトラストみどり財団の共催で、平成23年5月22日(日)に開催されました。

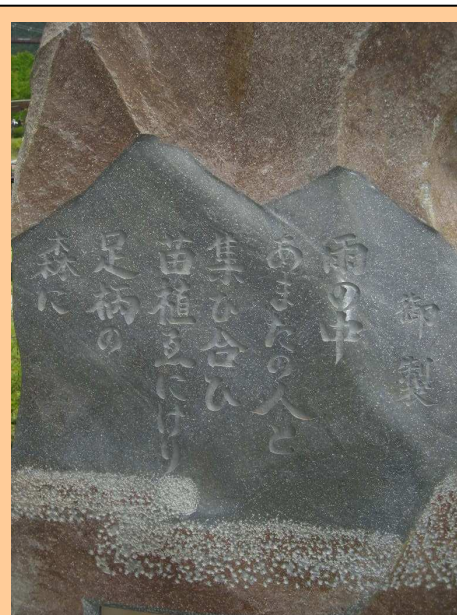
この「森へ行こう」は全国植樹祭を一過性のイベントにすることなく、その開催理念を伝え広げて行く**ポスト全国植樹祭企画の第1弾**です。柏倉さんの熱意が実現しましたね。

当日は、全国植樹祭の様に雨が心配されましたが、心洗われるような新緑のきれいな南足柄お手植え会場の森の中、御製碑(記念碑)の除幕式でイベントがスタートしました。除幕は、主催者の黒岩知事、新堀理事長そして南足柄市長、地元選出川上県議員や緑の少年団も参加し和やかなムードで行われました。御製碑(材質は真鶴産本小松石)は天皇陛下が全国植樹祭に寄せてお詠みになった**“雨の中あまたの人と集ひ合ひ苗植ふにけり足柄の森に”**が刻まれています。

あわただしく、次の秦野式典会場へマイクロバス3台で移動。第2部も予定通り順調にスタート。一般参加者へ知事のあいさつ、自らがプロデュースしたミュージカル「葉っぱのフレディ」を照会し、森を大切にすることが「いのち」を大切にすることと力説されました。



和やかなムードの除幕式



天皇陛下の御製碑

地元秦野市長の歓迎のあいさつの後、東日本大震災により亡くなられた方々に1分間の黙祷を行いました。
心からご冥福をお祈りいたします。

つづいて、本県環境大使白井貴子のミニライブが始まり全国植樹祭の大会テーマソング「森へ行こう」と全国植樹祭での皇后陛下の清らかで穏やかなお姿と日本の象徴である桜のイメージが一直線に繋がって出来た曲「SAKURA SAKURA」の歌声が緑輝く周辺の山々にこだましました。



環境大使の白井貴子さん

会場の熱気が冷めやらぬ中、東日本大震災による被害を受けた森林の復旧に使われますとの白井貴子さんの呼びかけで緑の募金を行いました。募金箱を持った緑の少年団の「お願いします」の熱心な声掛け効果もあり、主旨に賛同していただいた多くの参加者から、たくさんの義援金が集まりました。誠にありがとうございました。

昼食の後は、いよいよ本日のメインイベントである自然観察会！が始まり、我々の出番と胸を張る森林インストラクターを先頭に次々と参加者が全国植樹祭の森へ出発して行きました。

観察会場では、全国植樹祭で植栽したケヤキやイロハモミジなどを見ながら将来は「混交林」を目指していることや、森林循環による持続可能な人工林の造成として植栽した少花粉のヒノキ・無花粉のスギの話など、森林インストラクターからの森林や植物に関わる楽しく名調子の説明に聞き入り、興味をそそられた参加者が満足顔で戻ってきました。

森林インストラクターの皆さん、朝早くから1日お疲れ様でした。お陰様で大成功の内に第1回「森へ行こう」を実施することが出来ました。折しも先日の総会で新たに選任された久保理事長体制下での初めての大きなイベントとなりましたが、引き続き、かながわ森林インストラクターの会と財団は車の両輪として連携を図り、県民参加の森林づくり活動を推進していきましょう。



楽しい自然観察会

特別
＊
寄稿

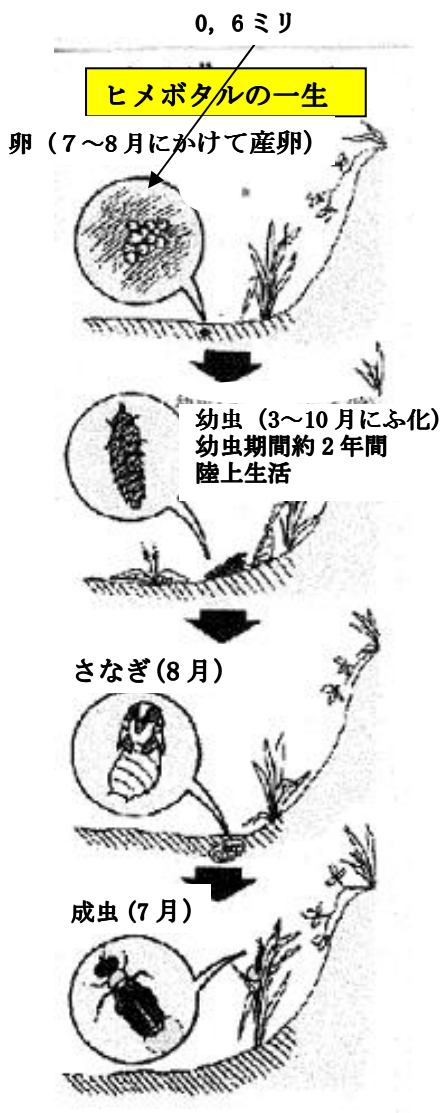
ヒメボタルの生態

鍋割山荘・草野延孝氏



2002/7月20日撮影 ♂

毎年、草野延孝氏経営のやどりき水源林最高峰、鍋割山（1272、5m）・鍋割山荘では7月第3土曜の夜（翌日、登山道補修ボランティア）に＜ヒメボタル観察会＞が行われています。その年の気候、その日の天候にも左右されるので、観察日の設定には大変苦労されているようです。例えば、満月は×、雨は×、風は大敵、風もない闇夜が理想的であり、気温も関係あるようです。ヒメボタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルと違い陸生のホタルです。水生と同じように餌は貝類ですが、それも陸生の貝類で成長していきます。（広報部・MURA）



ホタルの中ではメスが大きいのが普通ですが、その中でもヒメボタルは例外で、メスの方が小さいです。

最近、ヒメボタルは各地でその棲息が確認され、ゲンジボタルやヘイケボタルに並んで、保護されるようになっていきます。

○体の大きさ（体長）

ヒメボタルには、大型（♂9mm、♀7, 5mm、発光間隔1秒）と小型（♂7mm、♀6mm、発光間隔0, 5秒）の2タイプがいることが明らかになっています。神奈川県箱根を境に東日本には大型が、西日本には大型と小型が分布しています。（大場、1998）

○色

＜♂＞頭は黒色、胸は淡い赤色で前方に黒い半円の模様があります。腹部は黒い色ですが、淡い黄色に発光する節が2つあります。

＜♀＞オスと色は同じですが、発光する節はひとつでBを横に倒した形をしています。

○かたち

＜♂＞目は大きく、触角は細く短いです。

＜♀＞オスよりも小型で、体の幅が広いです。下の羽が退化しているため飛べません。

○成虫の見られる時期

丹沢に幅広く棲息するヒメボタルは例年 7 月半ば～下旬に発生します。

○見られる地方

青森県を北限に、南は九州までです。

○光り方

＜♂＞断続的に光を放ち、約1秒間に1回規則的に発光します。

＜♀＞2～3秒間に1回、瞬くように速く光ります。

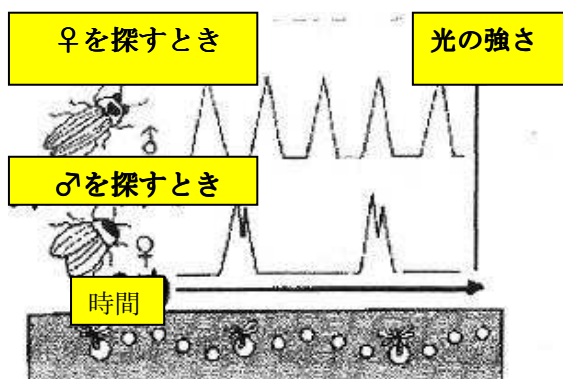
○生活

＜成虫＞オスの規則的な発光に応えるように、メスはまたたくような光でオスを誘い交尾します。

＜卵＞交尾した後メスは、直径約 0, 6mm の卵を土の中に産みつけます。

＜幼虫＞ふ化した幼虫の大きさは、約 2mm で淡いこげ茶色で地上の貝類を食べます。翌年4月中旬には約 1cm に成長します。

＜ヒメボタルの発光パターン＞



＜さなぎ＞よく成長した幼虫は、簡単な土まゆをつくり、約1ヶ月で羽化します。

岩手県二戸市、二戸ミスト会のホームページ「ひめほたる」内の「ヒメボタルについて」より抜粋、丹沢にあわせて改変しました。

参考文献「ホタルの飼い方と観察」

大場信義 理学博士 神奈川県横須賀市

自然博物館 学芸員

第5弾＊やどりき水源林は魅力がいっぱい！！**森林癒し部会からの報告 運営委員 時田愉季子・宮下修一****～森へいざなう樹林気功研修会の実施―藤田雅子伝え手の登板～**

活動日：2011年5月7日（土） 曇り一時小雨 9時～16時

活動場所：やどりき水源林 講師：樹林気功伝え手―藤田雅子先生

参加者：タカナシ乳業（株）：中原様、松村様 渥美様 河野様

山北町：菊地様 高山様、他

インストラクター：菊地①、加藤⑧、飯澤⑨、天野⑨、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、
（森林癒し部会）高崎④、森本⑤、谷津⑦、草野⑧、高橋⑨、時田⑩、松山⑩、宮下⑩、福島⑪、
山下⑪、吉田⑪

東日本大震災の影響で延期されていた、樹林気功の研修会とタカナシの癒しの森整備が実現。天候が心配されたが、作業と研修ができる空模様。新松田駅に集合し、借り上げバスでやどりき水源林に。研修会への参加者はタカナシ乳業、山北町そしてインストラクター。

研修会は2部構成で、**第1部**は、タカナシの森活用についての事前研修（平成23年3月1日実施）に基づく癒しの森整備。**第2部**は、本日のメインプログラムである**樹林気功の伝え手である藤田雅子先生の研修**。まずは全員で顔合わせと紹介。

午前の**第1部**は、＜「タカナシの癒しの森」のフィールドづくり。＞①新たな入り口部の整備、②分ち合いスポットづくりや瞑想の場づくり③癒しの小道の石の整備、④危険木や山積みされた枝の整理が本日の作業。4班に分かれ、それぞれの班が皆でアイデアを出し、楽しみながら作業を進めた。作業も癒し体験の1つである。

入り口部は癒しの森全体を見渡せるところに設置。経路横には分ち合いのスポット。自然の石をテーブルに、間伐材を利用したベンチを。瞑想の広場でも、ところどころに間伐材を設え、休憩場や自分の居場所を設けた。すでに経路は設置。癒しの小道づくりや細い沢部の渡り場を再整備。山積みされた枝は、周辺部に。

第2部は、＜藤田雅子先生の樹林気功の体験と研修＞である。藤田先生は、樹林気功の提唱者である今田求仁生氏に師事。現在三重県津市三杉町に在住し、樹林気功の伝え手として各地で活躍。樹林気功の樹林というネーミングには、雑木の森、原生の杜、手入れの行き届いた人工林のような、いろんな命の連なりの豊かさを思う気持ちが込められている。と言う。気功の気は命。功は積み重ねると言う意味。命を積み重ねること、自分がいかに生きて行こうかという哲学的な趣のある世界、それが気功であると言う。

【内臓の気の流れを整える手・足や腕の按摩功】

気功を始める前に体と心の準備。手や足、腕をこすることにより気の出入り口を掃除し気の流れを良くする。二人で体をほぐし合い触れ合うことで心を落ち着かせる。心と体の準備が整い、いざ樹林気功の世界へ。



【シラカシとの交流・木を愛でる気功】時の流れを感じる大木の前に立つ。両手を下から幹に沿って梢の方まで上げる。枝ぶりが広がるように手を広げ、枝が揺れるように手を揺らしながらゆっくりと下ろす。何かしら木と交流ができた様子。

【ミツマタから出る気の体感】手の平の真ん中にある労宮穴（ろうきゅうけつ）あたりでミツマタの花を優しく包むようにかざして見る。何かピリピリとした感じが、すべての命には気が存在する。相手を愛でる気持ちがあれば手をかざすだけで命と命の交流ができるという。山の神へ向かう途中の谷筋では気の流れを大きく感じるという。山の神は気のスポット。鳥居の手前と向こうでは気の違いがあるという。この違いの線を結界という。

【同じ動作を繰り返すスワイショウ】簡単で気持ちがよくなる気功法。



足を肩幅に開き膝を少し曲げて立つ。腕を振り子のように前に振り出し、そして次に腕を後に振る。繰り返すことにより脳波が安定し心が落ち着く。胃腸を整え肩こりが楽になる。動きながらにして瞑想しているかのような心地よさ。

【深い味わいがある站木庄功（たんとこう）】姿はただ立っているだけであるが、体の内側ではダイナミックな動きが。腕の両脇にボールを抱えるようにして立ち、天から百会（ひゃくえ）に糸が下りて来る感覚を意識する。脇がもやもやとしたり、足の内股外側などに温かさを体感するかも。

【自分が花になり大輪を咲かせるような華風信】足を肩幅にして立ち、親指と小指をつけるようにしてつぼみをつくり、天に向かって両腕をゆっくり伸ばし蓮の花が開いた感覚で左右に両手を広げ大輪花を咲かせ、吐く息に合わせて手を下ろしていく。相手のことを思いやる心の豊かさが、体の健やかさにもつながっていくという。先生はおっしゃる。樹林気功はあなたを優しい人にしてくれます。いろんな命に対して、そしてあなた自身に対して。



他9名の方から寄稿頂きました。
部会、広報等で活用させていただきます。
（文責 宮下修一）

特別寄稿：タカナシ乳業（株）・渥美昌彦様

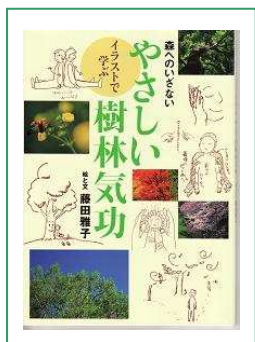
自然、風景写真を撮るのが趣味の私にとって森林への畏敬の念は忘れたことはありませんが、樹林気功は更に森とのふれあいを楽しいものにしてくれました。藤田先生ありがとうございました。気がつけばいつも手をこすり合わせています（笑）。

本の紹介

森へのいざない

やさしい 樹林気功 絵と文 藤田雅子

村井正孝＜9期＞



東洋医学を取り入れた藤田雅子先生の「やさしい 樹林気功」は著者の親しみやすい文と気功の仕方を解りやすく解説した絵、スタートを飾る写真からなる94ページの本です。森林インストラクターとして森の活動をしながら、ややもすると忘れかけた気持ちを寄り戻してくれる本でもあります。序・いろんな「これが大事だ！」第一章 樹林気功の基本 第二章 普段の生活に取り入れて、潤いを与える。第三章 樹林気功の深みを見る。第四章 大自然の治癒力に出会う。さあ！森へ行こう！第五章 森を癒してくださっている皆さんへ 森での体ほぐしでは＊森で怪我をしない体ほぐし＊昼の休憩時の体ほぐし＊“今日はお疲れ様でした。間伐でこんなに山が明るくなりました。ホントにうれしいですね”・・・作業後の収功 他部の部会や森林づくり活動やネットワーク活動でも取り入れれば**我が会独自の魅力に繋がる**と思います。 発行：全国林業改良普及協会 1800円＋税

活動短信

5/19～5/25

野外体験学習

日 5月19日(木) 晴れ 13時半～20時半
場 横浜自然観察の森
参 横浜市立西寺尾小学校 4年生 70名
 教師 6名他 2名

イ L渡辺③、宮本④、斉藤⑥、杉戸⑥、伊藤⑦、
 野田⑧、木島⑩、海野⑩、

学校からの要請は、自然観察を通じて自分達の身近な場所にも豊富な自然があることを知り、自然と親しむ、自然を大切にしようとする心情を育くむ。

「ナイトウオーク」夜の闇を体験する。

ここ横浜自然観察の森は、三浦半島から続く横浜最大の緑地で深い森は豊かな自然がそのまま保全されており、「生き物の賑わいのある森」を目指し展開されています。

昼食後、8班に分かれウグイスの鳴き声に誘われて出発。炭焼き窯、自然観察センターの展示物の見学、暗い林、明るい林の体験。タイワンリスとの遭遇に大感激！ 湿地に棲む生物の観察、飛び交うトンボを追い、太古の時代、海底であった名残り留める地表と貝殻を観察。谷間では、源流や水生生物が棲める環境について話し合い、野鳥観察や地表、断層を見学、解説板で自然のエネルギーや営みについて学習。クヌギの林では萌芽更新、木を切る話、昔の生活など話す。大自然の中で自然観察を通じ、豊富な自然を知り、五感で親しみ、自然の大切さを理解できたと思います。

夕食後、ナイトウオークに出発。普段体験出来ない静寂の闇の中を歩く。私達は日頃いかに明りに頼って生活しているかなど話ながら無事終わる。生徒達は注意事項を守り、熱心に学習している姿が印象的でした。(記 10期 海野)

「平成23年度 川崎市里山ボランティア育成講座」 第1回

日 5月21日(土) 9時半～14時半
場 川崎市等々力緑地
参 一般市民による講座メンバー24名
スタッフ 川崎市公園緑地協会他2名

イ L金森⑩、安部⑤、清水⑧、小林⑩、

計6回講座の第1回目。参加申し込みのあった全員が出席。開講式に続いて、川崎市民活動センターから「ボランティアの心得、協働の仕組み」について誰にでも身に覚えのある失敗談や注意事項をユーモアたっぷりに話していただいた。建設緑政局企画課から「川崎市緑の基本計画」について本音を交えた説明がされた。参加者から日頃から疑問に思っていた行政への質問が盛んに出された。川崎市は特に緑地の買い取りに力を入れている点が共有でき、市民が管理を担う協働の意向も理解できた。午後からは屋外にて清水インストラクターによる道具の説明の後、デモンストレーションで30年生のマテバシイを伐倒する。

その後、3班に分かれて、安部、清水、小林インストラクターの指導のもと、除伐、枝払い、玉伐り、さらに枝を細断する作業を全員で行う。小林インストラクターから道具の手入れの説明。慣れている方も多かったが、講座の第1回にしっかり伝授し、共通認識とした。次回は7月9日(土)麻生消防署にて救急法、万福寺ふるさと緑地でアズマネザサの駆除等を予定する。(記 10期 金森)

第2回講義「森林のはたらき」

日 5月21日(土) 10時～12時 晴れ

場 鎌倉市中央公園

主催 鎌倉市公園協会

参 平成23年度緑のレンジャー6名(申し込み6名)

イ 島岡

鎌倉市公園協会の事業、平成23年度緑のレンジャー(シニア)のカリキュラムに沿い、第2回目は受講者全員が参加した。講義は「森林のはたらき」鎌倉市の植生や樹林管理の必要性についてと題して、鎌倉市の樹林地面積の変遷、森林のはたらき、保安林、かながわ森林再生50年構想、樹林タイプと利活用の内容、樹林地整備上共通の注意点、広葉樹樹種による特徴、相対照度と実生・成長量の関係、環境や目的と対象樹種の伐採方法の選定などの説明を実施した。講義終了後、中央公園内を歩き、開花時期の植物や森林の形成の現状、公園の保全との関係など説明し終了した。

今回も受講者は、大変興味を持って聞いてくれたと感じている。(記 3期 島岡)

パートナー林活動 「間伐体験・自然学習」

日 5月21日(土) 9時半～14時 晴れ

場 山北町世附 富士通FIPの森

参 富士通FIP社員 25名

県 自環境センター森林再生部水源の森林推進課

イ L川又⑥、斉藤⑥、杉戸⑥、武川⑥、戸谷⑥、
 加藤⑥、武本⑦、上田⑩、

当日は初夏を思わせる絶好の日和となった。

諸注意、準備運動を行い、間伐班は3班(15名)、自然学習班は1班(7名)となる。

間伐班は傾斜地を避け比較的平坦地をそれぞれ選ぶ。林分はスギ林で樹齢40年ほどで樹高13～14mtと高く未間伐地のため、枝葉は上部2～3mtにしかついていない。下層植生はなく、スギの落下枝のみ目立つ。

インストラクターが6名で15人につくという手厚い布陣と正味時間が2時間半あったためじっくりと丁寧な体験をして頂いた。間伐対象木は枯損木。支障木を重点的に選び、ロープをかける練習も実施。

自然学習班は林道沿いを世附の「丹沢森の仲間たち」のフィールド方面に向かい、途中から源五郎沢に入り込んだ。武川氏より昨年9月に山北、駿河小山周辺での記録的豪雨によるこの沢が受けた水害の凄まじさを説明した。東日本大震災での津波の被害の甚大さを皆さん目に焼き付けていたので、水の凄さが自然をいかに壊し、また時間をかけて再生していくのか充分に理解して頂けた。

昼食は孟宗竹を半割して、竹の食器を自作して頂き、手作りカレーを賞味していただいた。

(記 6期 加藤)

全国植樹祭「森へいこう」自然観察会

日 5月22日(土) 8時～15時 曇り
場 県立秦野戸川公園
参 緑の少年団二団 一般参加者 90名
財 みどり森林課・内海、豊丸、古舘、
イ L渡辺③、足立④、伊藤⑦、小野⑦、白畑⑦、
 久保⑧、松本⑧、飯澤⑨、小沢⑨、辻村⑨、
 水口⑨、金森⑩、松山⑩、後藤⑩、

8時半前に現地集合して、霧雨が舞う怪しい雲行でしたが、解散の3時までは天気は持ち越せました。

今年の5月23日に天皇皇后両陛下ご臨席のもと、第61回全国植樹祭が神奈川県で開催されました。秦野会場と南足柄会場で、22種類の樹木を植樹しました。

今年は和歌山県で第62回全国植樹祭が本日より開催されています。植樹祭はいつも雨模様？です。

式典は、黒岩神奈川県知事の『葉っぱのフレディ』のいのちの大切さの話と、古谷秦野市長のご挨拶の後、『森へいこう！』作詞作曲の白井貴子さんのミニライブがありました。天皇陛下の詠まれました『雨の中 あまたの人と 集い合い 苗植ゑにけり 足柄の森に』御製碑やパネル展示見学後、緑の少年団二団と一般参加者を合わせて約90名による自然観察会を行いました。5～10名にグループ分けして、秦野戸川公園式典会場を出発して、植樹会場の樹木などの自然観察をして、無事終了することが出来ました。

ヤマビルは少し発生していたようです。

(記 10期 後藤)

林内整備・間伐・癒し体験

日 5月22日(日) 10時半～14時半 曇り
場 やどりき水源林
スタッフ 鶴岡八幡宮槐の会 当間、軽部他5名
参 104名(申し込み者 84名)
県 自環保・森林再生部水源の森林推進課 内田
イ L高崎④、竹島③、森本⑤、坂齋⑦、若林⑦、
 草野⑧、高橋⑨、村井⑨、青木⑩、時田⑩、
 吉田⑪、福島⑪、

国土緑化推進機構の助成事業「癒しのフィールドづくり」の一環として活動した。

従って午前は、「タカナシの森」癒しのフィールドづくりと延寿の森の間伐、林内整備、午後は森林癒し体験。午後は天気予報で降雨確率が高かったため、担当者と前向きに協議し、各プログラムを予定より30分ぐらいずつ前倒しで実施した。その結果、終了まで雨にたたられることはなかった。それだけでも成功だった。午前の作業で印象深かったのは、「タカナシの森」での林内整備を、グループ参加者全員でバトンリレー式に行っていたことだ。友好的、協力的な雰囲気にあふれ、それだけでも、「タカナシの森」へのリピーターが増える

のではないかと考えた。午前の作業終了後、動的作業から静的活動へのスイッチの切り替えとして、それぞれの場所でリラクゼーション・樹林気功・樹冠の揺らぎ等を行い昼食に移った。午後のプログラムは、リピーター参加者の意向・槐の会のご好意で、全員に森林癒し体験を楽しんでもらった。滝など新しいスポットに加え、プログラムにも工夫を加えることが出来た。参加者アンケート、「今後このような森林癒し体験が開催されたら参加されますか？」に対し、大部分の方が「参加する」とのことでした。

100人規模の森林癒し体験・・・全般的に大好評でした。

(記 4期 高崎)

自然観察部会 森林探訪 「矢倉岳」

日 5月22日(日) 8時半～15時半
場 矢倉岳<新緑の足柄古道を訪ねて>
参 一般募集56名(男性30名・女性26名)
イ L鳥飼⑪、友谷①、鈴木③、宮本④、佐藤⑤、
 滝澤⑤、野田⑧、三浦⑧、宮本⑧、内野⑨、
 女川⑨、海野⑩、小林⑩、上野⑪、上宮田⑪、
 松永⑪、

雨模様との気象予報のせいか、参加者はやや少ない56名。矢倉沢公民館前広場でオリエンテーションの後、1班から10班まで順次スタート。高齢者多数参加のため、サブ2名とフリーも4名配置し、ロープも持参で、急坂での対応にも万全を期し出発。曇りながらも矢倉岳の山容が見え参加者にも期待が高まる。小川、竹林、茶畑、雑木林、カシの大木、鎮守の森と、里山の風景が広がる中、初夏を彩るミズキ、ウツギ、キリの花々。各班とも参加者とインストラクターの楽しい会話が弾む。スギの人工林からやがて広葉樹の新緑の中に包み込まれ、ハウチャクソウやスマレ類との出会いを楽しみながら、苦しい登りを全員登頂。

風の強い山頂はあいにく眺望がなく残念。昼食を早めに切り上げ下山。ヤマドリソウの青、ヒメハギの赤紫に目を奪われる。足柄古道では小雨の中、ニシキウツギやヤブデマリとも出会い、振り返ると水源林の中に矢倉岳の全容。1名、万葉公園からバスで降りたいという方に対応した以外、全員無事自力下山。参加者の楽しかったとの感想にインストラクターもようやくひと安心。

(記 11期 鳥飼)

パートナー林活動 新入社員研修 間伐

日 5月25日(水) 10時～13時
場 やどりき水源林・鈴廣かまぼこ 恵水の森
参 鈴廣かまぼこ 新入社員他 18名
県 自環保水源の森林推進課 内田、小司、森
イ L小沢⑨、波多野⑪、

昨日の雨も上がり、ヤマビルの心配もあったが、素晴らしい天気恵まれ10時に集合し挨拶を兼ね準備運動と間伐用具を揃え鈴廣かまぼこ恵水の森へ出発。18名を2班に分けて、間伐の意味や方法、スギとヒノキの違いを話し、作業開始。新入社員とのことで若さいっぱい。3;1で女性が多く、各班ヒノキを1本づつ伐倒、枝払い、玉切り処理をして、作業終了後の林を確認。倉庫前広場に戻り質疑応答。全員無事を確認して終了。

(記 9期 小沢)

やどりき水源林
ミニガイド

6月のトピックス



ミツバアケビにお猿のパンツが・・

7月の水源林



県花 山百合が咲きだします

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約25分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

先生の為の地層と化石入門2011

7/28（木）～29（金）の2日間

対象；教員/大人 12人

申し込み；〆切り7/12（火）①講座名②開催日③代表者の住所④電話番号⑤参加者全員の氏名⑥年齢を明記して往復ハガキで郵送・〒250-0031 小田原市入生田499 生命の星・地球博物館企画普及課

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。＜広報全般についてのお問い合わせ＞

小沢章男まで

Mail;a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

送り先

＜①電子配信担当＞

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛045-477-1866>

Mail:shinrin_inst.denshihaishin@gmail.com

＜②メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minagold109@yahoo.co.jp

【ccで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

原稿は随時受け付けてます。

編集後記

★ここ一年間、Face book で世界と交信、今でも世界中から毎日5人位は受信、話題は原発に集中、中にはこんな国有ったかと知らない国から有る。かなりの方から、東京は放射能で大丈夫かの問い、すべて英語で応えているが、慣れているが大変。まるで、日本政府の代弁者のようだ。絶対安全と。（鈴木松）

★「休日の節電暑さ対策は森へ出かけましょう。最高！」（水口）

★夏山の魅力と安心登山（基調講演、田部井淳子・パネル討論田部井淳子・金邦夫・柏澄子の各氏）のフォーラムに参加して一番印象深く残った言葉は山への上昇志向と反比例するのが体力の下降志向にきづかず若い時の気持ちで歩かない！！（小沢）

★夏の節電対策としてゴーヤが人気とのこと。我が家も初めて植えてみました。このところの暑さでぐんぐんつるを伸ばしています。今から収穫を楽しみにしています。（井出）

★4月鍋割登山して山荘ご主人・草野さんに原稿依頼、先月、小田原こいの森での活動下見の折、風祭にあるパートナー企業の鈴廣かまぼこ様を小沢さんと訪問し、本誌の表紙を飾って頂けることになりました。10月号です。これからも積極的な広報活動を心がけていきます。

（村井）

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

（領 価 200円 送料共）

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫（HP）

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

大塚晴子 鈴木 朗 鈴木松弘

天野里美

鍋割山荘 ヒメボタル観察会
7月16日（土）～17日（日）

丹沢一、料理がおいしい山小屋です。
鍋焼きうどんは鍋割、鍋焼きでありにも有名
1泊2食で6500円・予約は絶対お願いします
草野さん携帯；090-3109-3737
では、楽しい一夜をおすごしください。



ヒメボタル ♂